

令和4年度 小金井市地域課題分析・評価シート（みなみエリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- 1. (総)※孤立しがちな高齢者へのインフォーマル支援が少ない
※閉じこもりがちな独居・高齢世帯
- 2. (小)(他)住民どうしのつながりが少ない
- 3. (小)(他)コロナ禍で※対面での情報手段が弱くなっている
※地縁組織・近隣住民同士の対面活動自粛による身近な情報の減少



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- 1. (総)新規認カフェの立ち上げ支援／協議体開催し居場所の必要性を確認。住民、JKK、包括によりR5.4より認カフェが新設される。さくら体操自主会場の開拓／地域での活動連携が発端で、光明第二保育園を会場にR5.4より自主さくら体操の新規会場開設へ。
- 2. (小)(他)スカイコーポラス/シニアライフ専門委員会の継続支援／住民相互が見守りあう活動の月例化。(小)(他)サロン連絡会定例化／活動やサロン参加者の課題共有や活動情報交換の場として横の繋がりが出来てきた。
- 3. (小)(他)みなみ包括公式LINEアカウント情報発信／高齢者向けお役立ち情報のオンライン発信。高齢者のスマホLINEユーザーやCMなどへの情報発信する。包括ニュース継続発行／圏域内の自治会・町会、民生委員、通いの場団体、要支援・事業対象者、公共施設、医療・介護関係機関などへ広く配布。包括の情報発信ツールとして周知が進んできた。(2000部／隔月発行)課題啓発寸劇開催／お金の管理に関する困りごとをテーマに朗読劇実施、啓発効果に手応えあり。

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議・2層協議体

[個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談

[他]：その他（懇談会など）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ・① 外出する機会が少ない
- ・① 認知面の低下(MCI)により困りごとが増える
- ・①② ちょっとした相談をできる相手が近隣にいない
- ・①② 他者の支援を拒否する
- ・②③ 困りごとに対して有効な情報が分からない
- ・①②③ 感染症による自粛や周囲への配慮
- ・①②③ 多様な情報手段への対応能力低下



III. 考えられる背景（環境要因）

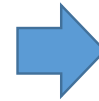
- ・①② 高齢者の社会参加の場が少ない
- ・② 認知機能の低下に気づく人がいない
- ・② 本人の生活歴・意向を知っている人がいない
- ・①② 本人は困っていない
- ・③ 情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
- ・①② 社会の多様化に加え感染症により個別化が進んでいる
- ・①②③ コロナ禍で社会資源へのアクセス機会低下

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和4年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみエリア）

活動目標

- ①孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どのように生活をしていきたいかを把握する
- ②住民が必要と感じている情報を把握する。
- ③近隣者で顔の見える関係作りを行う
- ④多世代交流やICT活用による多様で多層的繋りづくり
- ⑤圏域内のコミュニケーション手段強化



活動目標の達成状況（結果評価）

①②③スカイコーポラスにて高齢当事者によるシニアライフ専門委員会の月例開催支援。委員会に継続出席し情報提供・啓発を行っている。／①②③サロンリーダーのニーズから協議体を重ね、サロン連絡会立ち上げ定例化。／①②お金の管理に関する困り事啓発寸劇の開催。啓発効果ありとしてR5は4圏域にて開催を計画／④⑤包括ニュースの継続発行と公式LINEアカウント開設し情報発信。住民、利用者、関係機関との定期配信で包括周知を進める。

手段	R2	R3	R4	結果
①②自治会・町会、通いの場、総合相談などでニーズを把握する。	→	→	→	スカイコーポラス専門委員会継続支援。サロン連絡会や貫井住宅役員と協議体を重ねる。その他、通いの場訪問や自治会役員・民生委員などとの連携をする中で情報把握を行う。感染症対策緩和のなか、個々に対応や活動に濃淡が感じられる。
⑤みなみ包括ニュースの定期発行。圏域内配布し、住民や地域の情報ツールとして強化・定着させる。LINEやZoomなどのオンラインツールの並行活用	→	→	→	包括ニュースの自治会・町会、関係機関等への隔月回覧依頼で訪問し連携づくり。隔月2,000部発行。公式LIENでも地域情報や包括ニュースを情報発信(登録者数126名 R5.4.16時点)
④⑤ITC等を活用し、住民や通いの場などへの研修・会合・学びの場づくりや情報提供を行う。その他、関係機関や工学院など地域連携を状況に応じ順次再開継続する。	→	→	→	7/25貫井住宅住民と光明第二保育園をZoomで繋ぎ交流会開催。真新しさもあり好評であったが、住民側が高齢でオンライン開催より、緩和が進む対面交流を好む為1回の開催に留まる。／感染症が理由で工学院との連携は進まず。ITC活用外：12/14お隣さんカフェでお金に関する困り事寸劇啓発、3/3前原町連合町会福祉研修会にてフレイル予防と通いの場啓発実施。
①②③④小規模での話しあいの場(二層協議体・個別地域ケア会議)を行い、共通の課題を検討する。	→	→	→	コスモスⅡ・泰山木(1)、貫井住宅(3)、サロン連絡会(4)などで協議体開催。
①②③④新規通いの場の立ち上げを支援する。通いの場の連携(ネットワークや連絡会)づくりを支援する。	→	→	→	サロン連絡会を立ち上げ4団体から5団体へ参加増。課題共有や情報交換の場として年四回の定期開催。／R5.4より自治会、JKK、包括が協力し貫井住宅で認カフェ定期開催。／R5.春より光明第二保育園にて自主さくら体操開催へ。
①②コンフォール貫井(高齢者住宅)の集まりに随時参加し、ニーズを把握し情報を提供する。	→	→	→	集まりへの随時参加ニーズ把握から、包括職員が個々に訪問。個別対応による情報提供や支援に移行。
①②民生委員さんとの連携。町別協議会への参加や、75歳、80歳訪問に合わせ1人暮らしの方の自宅に同行訪問しニーズを把握する。(訪問事業再開が要件)	→	→	→	コロナで同行訪問できず。貫井南町町別協議会・前原町町別協議会への出席。R4年度もコロナ禍の活動で訪問が難しく、実態把握や情報入手も今まで通りに行えなくなっている。 ※圏域内、全民生委員へ包括ニュースの定期郵送

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和5年度 小金井市地域課題分析・評価シート（みなみエリア）

I. 地域課題と考えられる課題

1. (総)※孤立しがちな高齢者へのインフォーマル支援が少ない
※閉じこもりがちな独居・高齢世帯・高齢男性
2. (小)(他)住民どうしのつながりが少ない
3. (小)(他)コロナ禍で※対面での情報手段が弱くなっている
※地縁組織・近隣住民同士の対面活動自粛による身近な情報の減少。
4. (小)(総)(他)感染対策緩和のなか、個人や組織毎に自粛対応に濃淡が観られるようになってきている。



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議・2層協議体

[個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談

[他]：その他（懇談会など）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ・① 外出する機会が少ない
- ・① 認知面の低下(MCI)により困りごとが増える
- ・①② ちょっとした相談をできる相手が近隣にいない
- ・①② 他者の支援を拒否する
- ・②③ 困りごとに対して有効な情報が分からない
- ・①②③ 感染症による自粛や周囲への配慮
- ・①②③ 多様な情報手段への対応能力低下



III. 考えられる背景（環境要因）

- ・①② 高齢者(R5は高齢男性)の社会参加の場が少ない
- ・② 認知機能の低下に気づく人がいない
- ・② 本人の生活歴・意向を知っている人がいない
- ・①② 本人は困っていない
- ・③ 情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
- ・①② 社会の多様化に加え感染症により個別化が進んでいる
- ・①②③ コロナ禍で社会資源へのアクセス機会低下

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和5年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみエリア）

活動目標

- ①孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どのように生活をしていきたいかを把握する
- ②住民が必要と感じている情報を把握する。
- ③近隣者で顔の見える関係作りを行う
- ④多世代交流やICT活用による多様で多層的繋りづくり
- ⑤圏域内のコミュニケーション手段強化
- ⑥お金の管理に関する啓発



活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R3	R4	R5	結果
①②自治会・町会、通いの場、総合相談などでニーズを把握する。	➡			
⑤みなみ包括ニュースの定期発行。圏域内配布し、住民や地域の情報ツールとして強化・定着させる。LINEやZoomなどのオンラインツールの並行活用	➡			
④⑤住民や通いの場などへの研修・会合・学びの場づくりや情報提供を行う。その他、関係機関や工学院など地域連携を状況に応じ順次再開継続する。 ※必要に応じITC等を適宜活用。	➡			
①②③④小規模での話しあいの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、共通の課題を検討する。	➡			
①②③④新規通いの場の立ち上げを支援する。通いの場の連携（ネットワークや連絡会）づくりを支援する。	➡			
①②アンケート、通いの場訪問、総合相談などを通して男性の社会参加課題の把握			➡	
①②民生委員さんとの連携。町別協議会への参加や、75歳、80歳訪問に合わせ1人暮らしの方の自宅に同行訪問しニーズを把握する。（訪問事業再開が要件）	➡	➡	➡	

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。